

輝いています

お菓子教室講師・蕨マルシェ副会長

ひと

谷田部 道子 さん

お菓子作りからにぎわい作りまで



「3月16日に市役所でお会いしましょう」と谷田部さん

甘

い香りが漂う自宅の一室で、「定番のお菓子をもっとおいしく、美しく」をコンセプトにお菓子教室を開いている谷田部道子さん（49歳・北町1丁目）。今ではお菓子作りの枠を超え、活動の中でつながった仲間とまちのにぎわい作りにも尽力しています。

お菓子作り始めたのは小学生の頃。始めは自分が食べたくて作っていたものが、いつしか友達にプレゼントして喜んでもらうことが楽しくなりました。会社員になってからも、もっと上手に作りたいとクッキングスタジオに5年通い、修了後はケーキ講師として2足のわらじを履くことにしました。ほぼ休みなく働

く生活を7年続けた後、お菓子作りに専念することを決意し、13年前に自宅を改装。そこで行う教室は、作り方だけでなく、失敗時のリカバリー方法なども学べ、かゆい所に手が届くと評判になります。教室が軌道に乗り、市外で開かれる個人店やハンドメイド作家が集まるイベントでの販売も始めると、蕨でもこうした機会を作りたいという思いが強くなりました。そこで5年前に、個人店や作家の出会いをプロデュースし、活躍の場を広げる「蕨マルシェ」を仲間と設立。副会長の谷田部さんは出店者集めや会場探しに奔走し、市内各地で地元の逸品の販売やワークショップを行うイベントを実現します。回を重ねるごとに出店数が増え、ステージ発表など、内容も充実。出店者からは「活動の場が増えた」、来場者からも「おいしいものやお気に入りに出合える」と、好評です。

来月16日には、新庁舎を会場にイベントを開催します。蕨をもっと盛り上げ、一人でも多くのかたに笑顔になってほしい。その思いを胸に、これからもまちをにぎやかにデコレーションしていきます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.93—

本図は晩斎の娘の晩翠の作品です。

1年の中で60日に1度の周期で巡ってくる甲子（きのえね）の日の子の刻（午後11時～午前1時頃）に大黒天に二股大根などを供える神事を「甲子待」と言い、古くは室町時代の頃から行われていました。本図は大黒天の使いの鼠が夫婦揃って正装をして、恵比須と大黒天に大根を捧げ、「甲子待」をしている姿が描かれています。大黒天は小槌を振り上げ、自分の使いである鼠たちに今、まさに福を授けようとしています。

河鍋晩斎記念美術館 開催中（25日まで）

企画展「晩斎・晩翠 初春の慶び」展
同時開催 特別展「『猿楽図式』の世界」展

開 館＝午前10時～午後4時
ところ＝南町4-36-4
休 館＝火・木曜日、毎月26日～末日
入館料＝一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上の人は年齢の分かる物、
学生は学生証をご提示ください

詳 細＝同館（☎441・9780）



詳しい内容は館ホームページを御覧ください

yosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年（1831）
～明治22年（1889）



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

晩翠筆
「恵比須、大黒天とねずみ」
軸装